

令和6年度第2回 青森市障がい者自立支援協議会 議事要旨

日時 令和6年8月21日(水) 10時～12時

場所 青森市総合福祉センター2階 大集会室

出席者

(出席委員) 中村委員、田中委員、長谷川委員、加藤委員、高橋委員、常田委員、中野委員、鈴木委員、越膳委員、高杉委員、粕谷委員、對馬委員、張間委員、狭間委員、阿保委員、藤川委員、野呂委員、佐藤委員(18名)

(欠席委員) 谷川委員、小山田委員(2名)

(事務局) 障がい者支援課 山口課長、工藤主幹、渡邊主幹、斎藤主幹、竹内主査(6名)

1 開会

2 障がい者支援課 課長あいさつ

3 報告事項

(1) 青森市障がい者基幹相談支援センター事業計画

配布資料「令和6年度第2回青森市障がい者自立支援協議会資料」1～2頁について事務局より報告

《ご意見等》

特になし。

(2) 青森市障害者相談支援事業活動報告

配布資料「令和6年度第2回青森市障がい者自立支援協議会資料」3～12頁について委託相談支援事業所5者(指定相談支援事業所青森中央、やましろ、地域活動支援センター八甲、地域活動支援センターすばる、指定相談支援事業所ほたる)より報告

《ご意見等》

(委員) 金銭管理について、すばるで金銭管理を行っている2,186人のうち、実際どのように管理し、どのようにして金額を決めて渡しているのか教えていただきたい。

(地域活動支援センターすばる管理者) 金銭管理は、ご本人の生活状況や収支の具体的な金額などを確認させていただき、入ってくる金額と支出を一緒に確認し、自由に使えるお金をお出ししております。金銭の渡し方については、その方に合わせて対応しております。

(委員) 自己評価のレーダーチャートの点数の判断基準について、客観的に判断する基準があるのかどうかを確認したい。また、自己評価があるということは、他者評価やレ

レーダーチャートの低い部分について、改善策として基幹相談支援センターと協議しながらこういう対策をしていこうという、システムとかあるのかどうかを確認したい。

(事務局) レーダーチャートの自己評価のところですが、本日資料が手元がないので項目等をこの場でお伝えすることができないのですが、事務局の方で項目の①、②、③というように項目を細分化し、達成度合いを自己評価いただくという形にしております。そして総合点数をパーセンテージにして、このグラフに反映されるという形にしているというように評価しております。

また、他者の評価の部分については、一義的にはこの場を持って委員の皆様の方に状況報告させていただいて、様々ご意見頂戴して、今年度や次年度の活動に活かしていくという形を取っております。自己評価がちょっと低い部分についてどういった取り組みをするかという部分については、現時点では具体的には行われておりませんので、ご提案いただいたご意見も参考にしながら今後検討して参りたいと思います。

(委員) 業務が多忙で大変忙しいとは思いますが、自己評価が低かった部分を平均並みにすることによって、より地域の方々が住みやすい町になるのではないかと感じましたので、是非とも検討いただきたい。

(委員) 障害者就労・生活支援センターと委託相談支援事業所は、連携させていただくケースもあり、私どもから働きたいという意思はあるものの、そもそも家が崩壊しているようなケースについて連携させていただくケースもあった。そのような場合基幹相談に相談するべきか、委託相談に相談するべきか、迷っているが、まずは委託相談に相談するということでもいいのか。

(事務局) はい。

(委員) レーダーチャートの自己評価の解釈として、低いところが取り組みとしてできなかったからそういう評価になっているというよりも、環境などが物理的にどうしても難しいから低くせざるを得ない部分もあると思うので、低い部分の改善については、相談支援事業所だけで成り立たない部分をどこが担うかといったような、現状のところ、各相談支援事業所の対応している方々の住んでいる地域の実情とかもあると思うので、その辺りも整理し把握できると良いのではないかと思います。

確認したいのですが、すばるでピアサポーター活動の強化とあるが、ピアサポーターの養成は他にどこかでされているのか。

(事務局) 地域活動支援センターⅠ型が市内に3箇所ありまして、本日出席されており
ます「やましろ」「八甲」「すばる」で地域活動支援センターⅠ型も合わせて運営して
いるのですが、そちらの事業の一環として、ピアサポーターの養成講座を3者合同で
年1回開催しております。

(委員) それでは、その研修受けられた方がその事業所とかで働いたりすると、その
加算要件の対象になるという養成研修になるのか。

(事務局) 加算としての研修ではなくピアサポート活動の講習会という形で実施して
おります。

○日中サービス支援型指定共同生活援助運営評価

藤ヨゼフハウス及びソーシャルインクルーブ青森矢田前が参加

(委員) 藤ヨゼフハウスの方に、確認したいが、項目1番「地域に開かれた運営」の地域
住民との交流の機会の部分で、災害訓練の際、回覧板を利用して地域住民に参加の
呼びかけを行っているというお話でしたが、実際に回覧板で呼びかけて、どれく
らいの方に協力していただけたのか、また、協力していただいた方にはどのよう
なことをお願いしたのか、災害時の避難をどのように考えているのかということにつ
いて教えていただきたい。

(藤ヨゼフハウス管理者) 呼びかけは、大分早めに回覧板を利用して回覧していただい
ておりますが、当施設は、比較的に地域に開かれた場所にあり、実際の参加は厳しいと
思っておりますので、参加者は0となっております。もし参加した場合には、火災
訓練など様々行いますので、一緒に教育するなどといったことをお願いしようかと
思っています。参加者は0となっておりますが、毎回回覧板でこういう訓練があると
いう参加を募る文書を出しております。ただ、こちらの方では参加の意向がないので、
逆に今度は地域の方の災害訓練がありますので、そこには私たちも行って、逆に
名前を知っていただければと考えております。

(委員) ヨゼフハウスさんの方で、災害時とか非常時に地域の方にここはお手伝い
欲しいという、人員の数の問題なども含めて、要望があるのであれば、回覧板の
呼びかけだけではなく、町内会長さんに「災害時にちょっとこれをお手伝いしてほ
しい」「最低限できれば何人そういう時に駆けつけてほしい」ということを説明して、
さらに連携を深めていくという方法もあるのではないかと思います。

4 部会報告

○みんなの未来部会報告

(委員) みんなの未来部会では、これまで福祉現場の人材不足に焦点をおき、出前講座の実施について協議している。今回は事務局が作成したパッケージ案について意見交換し、時間の配分や説明する側もどのように説明するのかという不安があるということ、ターゲットをどこに設定していくのかということ、そしてターゲットに合わせた、理解度というものがあるので、対象者ごとに伝えたいことを今後整理していく必要があるのではないかということになった。

○就労支援部会報告

(委員) 就労支援部会は令和6年7月26日に令和7年10月から就労選択支援が開始するのに伴い、それに向けての整備をしていきたいということで、就労移行支援事業所の職員をお招きし部会を開催し、就労選択支援の事業の説明と、今後の取組みをどうしていくかということを確認している。また、令和7年10月以降、新規で就労系のサービスを使うか、または就労選択支援の利用が必須となり、現在、就労継続支援A型・B型の利用をされてる方も、段階的に就労選択支援のサービスを挟むことになっているので今後A型、B型、相談支援事業所にも同じような説明会をしていくことを共有している。本日の部会では、それらを踏まえて、スケジュールを確認するとともに、制度変更により支援者が短い期間で様々な作業を行うため、かなり多忙となることが想定されるので、市全体で取り組んでいく必要があるということを確認した。

○障がい児部会報告

(委員) 令和6年6月28日青森圏域医療的ケア児支援体制協議の場として、報告事項と今年度の取組や調査報告、支援に関する意見交換を行った。調査報告及び意見交換であおもり親子はぐくみプラザから9名の医療的ケア児の調査報告があり、出席委員と事務局との交換が行われました。今後については、引き続き、医療的ケア児の現状把握を進めるとともに、協議の場を通じて活発な意見交換を行っていくこととなった。

5 その他

障がい者手帳アプリミライロ ID の利用開始について報告